

宇宙測地学研究室

スタッフ: 日置幸介 (P 元国立天文台) 古屋正人 (AP 元東大地震研)

院生・学生: 小川涼子 (D3) 松尾功二、菅原守 (M2) 大関優、木下陽平、吉田清人

芹澤伸隆 (M1) 岡崎郁也、安田貴俊 (B4)

過去の卒論テーマ一覧

2004 地球の大規模変形(小川) 太陽フレア(二本柳) 地震時電離圏擾乱(佐藤)

2005 海面上昇(空閑) スマトラ地震による自転軸移動(吉見)

2006 海底圧力と地震の季節性(片岡) ロケット排気による電離圏の消失(古屋)

2007 火星の極移動(菅原) 火星の極冠の季節変化(松尾) エルニーニョと重力変化(森下)

2008 地球大気の時常自由振動(大関) 気候変動による大気水蒸気量変化(吉田)
合成開口レーダの大気補正(木下) アフガンのゆっくり地震(芹澤)

2009 GPS掩蔽法で大気科学(岡崎) 合成開口レーダでみる氷河の流れ(安田)

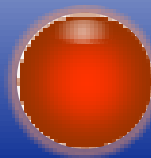
・新しい研究室(2004年発足): 一期生でもまだD3、一緒に伝統を作ろう!

・固体地球, 大気海洋陸水, 宇宙惑星を全部カバー: 「なんとか学一筋」が苦手な人向き

理学部8号館三階



火星



宇宙測地学研究室

研究室の方針

学会発表・論文発表の重視(M1で国内学会、M2で国際学会+英文論文)
博士に進む学生には自活の道を(JSPS研究員採用実績100%)

研究スタイル 観測データの取得、プログラムの開発、数値計算、セミナーと個人指導、アイデアで勝負、知的好奇心を刺激するテーマの設定



札幌のGPS受信局

測地学とは 地球(月惑星)の形、重力場、回転およびそれらの変化を計る研究、どのサイエンスに応用するかは自由

宇宙測地学とは GPS(測位衛星)、GRACE(重力衛星)、ALOS(合成開口レーダ衛星)や各種惑星探査データを用いた様々な応用研究

六年間の実績

国家公務員一種試験合格2名(国土地理院へ)
日本学術振興会特別研究員DC1.2 各1名
日本測地学会学生優秀発表賞 四回
院生による海外学会発表 十回
院生・学生が筆頭著者の英文論文 五編

